

阪神間交通量調査等の概要

(調査の概要)

阪神地域の交通流動を把握するため、阪神間の国道2号、国道43号、阪神高速神戸線、阪神高速湾岸線(ルバ-ルワイを含む)等で「ナンバープレート調査」と「断面交通量調査」を平日2日、休日1日実施した。

調査結果は尼崎あっせん事項のアンケート調査の実施日である平成17年3月3日(木)AM7:00~翌日AM7:00(24時間調査)のデータでとりまとめを行い、以下、調査結果の概要を記載する。

【断面交通量(全車種計、大型)】(P3~4)

全車種計で最も断面交通量が多いのは尼崎~大阪以東断面であり、同断面の路線分担率は国道43号及び神戸線が各々約3割、湾岸線が約2割である。

大型で最も断面交通量が多いのは尼崎~大阪以東断面であり、同断面の路線分担率は国道43号(約4割)>湾岸線(約3割)>神戸線(約2割)>国道2号(約1割)の順である。

国道43号・湾岸線の大型車交通量は尼崎~大阪以東断面が最大であり、国道2号・神戸線では兵庫区以西~中央区・灘区断面が最大である。

【路線毎の利用交通内訳】(P5~10)

「兵庫区以西~中央区・灘区断面」~「尼崎~大阪以東断面」間について、路線毎(国道2号、国道43号、神戸線、湾岸線)の通過交通・内外交通・内々交通の内訳を各断面について分析した。

国道2号は、通過交通が全車種計約130万台/日、大型約30万台/日であり、断面交通量に対する割合はそれぞれ3~4%、5~10%程度である。

国道43号は、通過交通が全車種計約400万台/日、大型約220万台/日であり、断面交通量に対する割合はそれぞれ5~6%、12~14%程度である。

神戸線は、通過交通が全車種計約388万台/日、大型約142万台/日であり、断面交通量に対する割合はそれぞれ約4割、約6割である。

湾岸線は、通過交通が全車種計約640万台/日、大型約280万台/日であり、断面交通量に対する割合はいずれも約1~2割である。

4路線合計では、通過交通が全車種計約506万台/日、大型約195万台/日であり、断面交通量に対する割合はそれぞれ約2割、約3割である。

【通過交通の主要な流動(大型)】(P11)

神戸線を兵庫区以西~大阪市以東まで通過する流動が最も多く、総通過交通の約4割を占める。

神戸線~湾岸線を乗り継ぐ流動が2番目に多く(摩耶ランプ~住吉浜ランプ乗り継ぎ)、総通過交通の約1割を占める。

対いで、国道43号と神戸線を西宮ランプで乗り継いでいる交通が約5%で続く。

【尼崎～大阪以東断面の主要な流動（大型）】（P 12，14，16，18）

国道2号では、尼崎市～大阪市以東間の流動が最も多く、断面交通量の約8割を占める。

国道43号では、尼崎市～大阪市以東間の流動が最も多く、断面交通量の約5割を占める。

神戸線では、兵庫区以西～大阪市以東間の流動が最も多く、断面交通量の約7割を占める。

湾岸線では、兵庫区以西～大阪市以東間および阪神湾岸地区（東灘区・芦屋市・西宮市）～大阪市以東間の流動が多く、ともに断面交通量の約3割を占める。

【兵庫区以西～中央区・灘区断面の主要な流動（大型）】（P 13，15，17，19）

国道2号では、兵庫区以西～中央区・灘区間の流動が最も多く、断面交通量の約5割を占める。

国道43号では、兵庫区以西および中央区・灘区～東灘区間の流動が最も多く、断面交通量の約6割を占める。

神戸線では、兵庫区以西～大阪市以東間の流動が最も多く、断面交通量の約6割を占める。

湾岸線では、兵庫区以西～中央区・灘区間の流動が最も多く、断面交通量の約6割を占める。

【内々交通（大型）】（P 20～23）

国道2号では、隣接間での交通が多く、内々交通の約9割を占める。特に中央区・灘区～東灘区間および西宮市～尼崎市間の交通が多く、あわせて内々交通の約6割を占める。

国道43号では、中央区・灘区～東灘区間の交通が最も多く、内々交通の約4割を占める。

神戸線では、内々交通は合計しても1,000台/日以下であり、他路線（国道2号、国道43号、湾岸線）と比較して少ない。

湾岸線では、中央区・灘区～阪神湾岸地区（東灘区・芦屋市・西宮市）間の交通が多く、内々交通の約5割を占める。

【阪神地域交通流動内訳（全車、大型）】（P 24）

全車種計では、尼崎市～大阪市以東間の流動が最も多く、尼崎～大阪以東断面の断面交通量の約5割を占める。また、兵庫区以西～大阪市以東まで通過する流動が各断面交通量の約2～3割を占める。

大型では、兵庫区以西～大阪市以東まで通過する流動が最も多く、各断面交通量の約4割を占める。

つぎに、尼崎市～大阪市以東間の流動が多く、尼崎～大阪以東断面の断面交通量の約3割を占める。

【断面交通内訳（全車、大型）】（P 25～P 28）

省略（各路線の交通特性で記載済みのため）

【《参考》断面交通量の過年度調査結果との比較（全車、大型）】（P 29～P 30）

今回調査（H17.3.3）と前回調査（H13.2.8）の断面交通量を比較すると、

全車種計では、4路線合計の断面交通量（東灘区～芦屋断面を除く）は各断面ともほぼ同じであるが、湾岸線の断面交通量は約1～2割増加している。

大型では、4路線合計の断面交通量（東灘区～芦屋断面を除く）は各断面とも約1割交通量が増加し、路線毎では国道2号で最大約2.2倍、国道43号で約1割～2割増加、湾岸線で約2～3割増加している。